（第３種郵便物認可）

京都市美術館 取り外し強行

大型彫刻壊すな

市民団体・美術関係者ら抗議

京都市美術館の大型彫刻作品「空にかける階段88―Ⅱ」の再展示をめぐり、市民や美術関係者らが再展示方法の成案がまとまるまで作品の取り外し工事をしないよう求めるなか、京都市は8日朝から、作品を根元から切断する工事を強行しました。市民団体や、日本共産党京都市議団（18人、山中渡団長）は同日、工事現場前で抗議を行い、「制作者の合意なく作品を切るな」「収蔵品は市民の財産だ」と訴えました。

作品の取り外し工事現場前で抗議の声をあげる市民、美術関係者ら＝8日、京都市

制作者の富樫実さんは作品を切断せず、地中埋設部分（約1・4メートル）から掘り出して再展示することを要望していますが、京都市は掘り出し工事が「困難」として地上面の根元を切断し、10日には作業を完了させるとしています。

京都市と富樫さんらは先月、可能な限り現状を維持することを原則に、再展示は、すり鉢状を基本とする確認書を締結しています。

抗議行動で、「京都アートカウンシル」の貴志カスケ代表は、京都市と富樫さん、貴志さんらで取り外し工事について協議し、断る返答をする前に京都市が工事を強行したことを批判。「富樫先生は切断せずに済むので、すり鉢状の確認書を交わした。先生は、この作品の長さ（約11メートル）に深い思い入れがある。前提の話を反故にするものだ」と述べました。

蔵田共子市議は「議会でも工事の詳細な説明がされていない。絶対に認められない。『表現の自由』に対する京都市の姿勢が問われる」と強調しました。